

データで確かめる、取り組みの成果

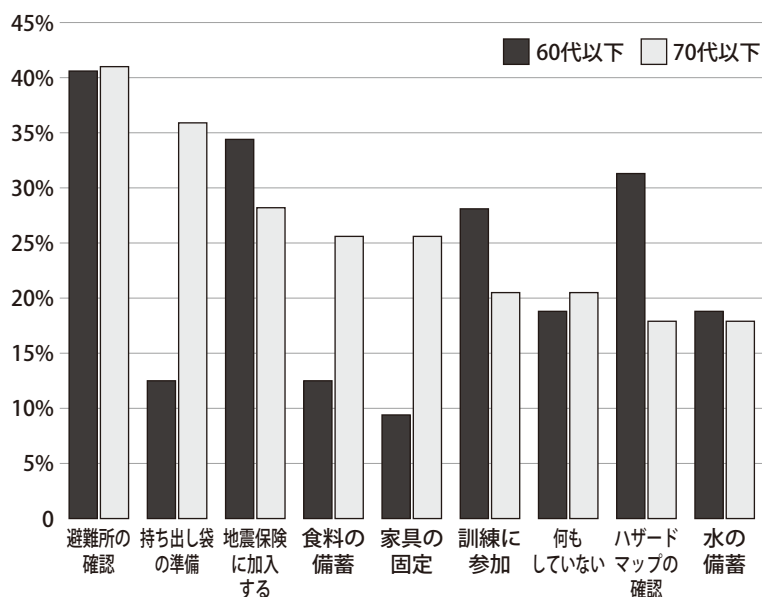
京丹波町では、CATVを活用して、防災の番組を放送したり、火の用心CMを放送したりしています。取り組みの成果を確かめるために、2019年末、質美地域の全178世帯を対象にしたアンケートを実施しました。

まず、どのくらいテレビを見ていらっしゃるか調べたところ、「ほとんど毎日見る」という人が90%、CATVの自主放送チャンネルを「週に1度以上見る」という人は62%いました。そして「火の用心CMを1度でも見たことがある」という人は、ほとんど100%に近い比率となっていました！



では、どのような効果があったのでしょうか。火の用心CMを見たことによって防火に対する関心が高まった人は、全体の59%いました。ところで、すでに4割ほどの人がCMに出演したことがあるとのこと。出演したことで防火の関心が高まったという人は74%もいました。「見ないよりも見たほうがよく、見るだけよりも出たほうがよい」。火の用心CMに、ぜひともご参画ください！

さて、さいごに下のグラフをご覧ください。60代以下と70代以上のかたで、防災の取り組み具合に違いがあるか比較したデータです。70代以上のかたは、持ち出し袋を備えたり、飲み水を確保したりしてくださっている人の割合が高いようです。



しかし、「ハザードマップの確認」作業は、70代以上のかたは実施率が低いことがわかりました。地図が細かくて、読み取りにくいことに原因があるのかもしれない。若い世代から地図の読み解きの手助けをしていただけると、より多くの人が地域のリスクを確かめられるのではないかと思います。